

佐渡市議会議員 政風会 幹事長 室岡ひろし

一般質問

「佐渡アイランド集落ツーリズム構想」の実現に向けて

室岡 啓史 議員

【質問】 佐渡の農山漁村集落を巡りながら余暇を過ごす滞在型観光、農山漁村集落の生業を大切に守り育て、生き生きと暮らせる地域づくりの仕組みとして、「佐渡アイランド集落ツーリズム構想」の実現を目指す。集落のチカラは佐渡のチカラ。サービス開始は数年以内に行けるとしても完成するのに50年かかると思込んでいる。佐渡市としての明確なブランドデザインを示していただきたい。

【市長】 スローライフを堪能できる集落を絶対になくしてはいけないということを感じている。集落ツーリズムは、非常に面白い、素晴らしい構想だと思ふ。ただ、区分けをして組み立てていかねばならず、適した集落については、交流人口を拡大も含めた今後の体験型ツーリズム候補地として組み立てていくことは非常に重要な課題だと思ふ。

【質問】 一社一村運動とは、企業や大学等の団体と農山漁村が協働活動することで農山漁村地域の活性化を図る運動で、2004年に韓国で始まった取り組みである。国や県から予算を持つてくる、佐渡市の予算を確保することもさることながら、島内外の企業に協力をお願いすることも大変重要なことと考える。具体的には、新潟県内や首都圏企業との地域活性化包括連携協定を締結することによって、韓国の一社一村運動のように、佐渡でもやるべきだと考える。民間企業の協力を得るには、集落と企業の

【市長】 集落の存続、活性化については一社一村運動だにこだわることなく、それぞれの集落のそれぞれの地域の特性に対して何が最適な対策かは考える必要があると思ふ。



一般質問

『説明責任』と『遊び心』を 忘れない佐渡市政運営を

室岡 啓史 議員

【質問】 佐渡の農山漁村の生業を大切に、滞在型観光でかけがえのない時を過ごす「佐渡アイランド集落ツーリズム構想」の実現に向けて、農林水産業の再隆盛を中心に「佐渡まるごとブランド化戦略」を推進すること、2060年までに民間所得を増加させる「サドノミクス」を提案する。

【市長】 おもしろいアイデアであると思ふ。農林水産業×AI（人工知能）の実証実験も国等と意見交換を続けたい。所得向上は、がんばらなければいけないし、島外へ流出する金額が増えないよう、産業育成に力を入れるべきだと思ふ。

【質問】 佐渡市への移住・定住を応援する情報誌「シマイル」は分かりやすく遊び心がある。紙媒体の情報発信のみならず、メディア

【市長】 さまざまな形で大学

【質問】 佐渡空港と大学誘致の実現可能性について問う。山形県鶴岡市では、庄内空港を至近に、高度な研究機関や関連産業を集積する鶴岡バイオクラスターが成功。佐渡市も県営空港2千メートル化を推進するならば、大学や研究機関の誘致を体として考え、経済効果の算出を行い、夢を描くというプロセスが必要だと考えるが。

【市長】 さまざまな形で大学

【質問】 不祥事根絶のためにも「説明責任」を果たすことのみならず、「遊び心」を忘れない佐渡市政運営を期待する。また、電話応対等の品質向上を望むが。

【市長】 不祥事の再発防止対策として、職員相互間の関係性の構築が重要と考える。職員の接遇やマナーの向上を図る研修等により、市民との信頼関係を築いていける環境をつくりたいと考えている。



一般質問

毎年3月10日を 「心の佐渡市民の日」(仮称)に

室岡 啓史 議員

【質問】 佐渡の農山漁村の生業を大切に、滞在型観光で時を過ごす「佐渡アイランド集落ツーリズム構想」の実現に向けて、毎年3月10日を「心の佐渡市民の日」(仮称)とする条例制定を提案する。平成29年度中の世界遺産国内推薦獲得への戦略の一つとしても、佐渡市民や観光のお客様による佐渡金銀山の魅力の再発見、知識の共有、文化施設や温泉施設の無料開放等、郷土愛醸成の一日として「お客様感謝デー」を決行するべきと考える。

【市長】 かなりユニークなアイデアで、おもしろい見方だと思ふ。メモリアルデーをつくるのは非常にいいことだと思ふ。どの日が一番ふさわしいのかということから、島全体で考える必要があると感じる。

【質問】 佐渡準市民制度を「心の佐渡市民」(仮称)へと名称変更するべきではないか。企業版ふるさと納税の活用、一社一村運動の提案先として、首都圏佐渡連合会のみならず佐渡準市民の方へも大いにPRするべきだと考える。

【市長】 一緒になって佐渡を盛り上げていこうという中では、どういった呼称が一番ふさわしいか、イメージもよく、PR性もあるかという点を常に考え、変更する必要性があると思ふ。

【質問】 文化財・伝統建築の利活用策について問う。

【市長】 民泊も含めた特区利用、海外から来た人にとって魅力的な民家があると思ふので、真剣に考えていかなければならないと思ふ。

【質問】 「地域のお酒で乾杯!条例」や、「残さず食

【環境対策課長】 宴会の最初の30分、最後の10分は自席で残さず食べましょうという「30・10運動」については、消費者協会との連携の中で取り組みをしていきたいと思います。



三度のメシより 佐渡が好き!!!

孫ターン! 室岡ひろし

室岡ひろし プロフィール

- 昭和55年 新潟市生まれ(本籍:上横山 基太郎)
- 平成11年 新潟高等学校卒業(第107回生)
- 平成17年 東京理科大学理工学部建築学科卒業
- 平成19年 同大学院修士課程修了(建築学修士) 東京のITベンチャー企業へ就職
- 平成23年 コールセンター(HCC株式会社)へ転籍 東京にあったコールセンターを佐渡へ本社誘致、孫ターンに成功!(秋津の佐渡本社センター責任者に就任)

室岡ひろしと 佐渡の明るい未来をつくる会

〒952-0024 佐渡市上横山273
☎090-9335-9519
f 室岡ひろし

平成29年2月1日(水)～2月9日(木)まで 両津吉井地区の7集落にて茶話会を開催しました!

7集落で合計11回の茶話会の開催。 延べ65名の皆さんで昼・夜と意見交換をさせていただきました。 貴重なご意見・ご質問・ご提案をいただき、大変勉強になりました。 各集落の魅力もお教えいただき、本当にありがとうございました!

皆さんのお困りごとやご意見が佐渡市政の改善のタネとなります。 一人でも多くの市民の方との意見交換に伺いたいと思ひます! 茶話会開催ご希望があれば、是非ともお声掛けください◎ 平日土日、昼夜問いませんので、どうぞよろしくお願ひいたします。

【連絡先】 室岡ひろしと佐渡の明るい未来をつくる会 発行責任者 室岡啓史：090-9335-9519



三度のメシより 佐渡が好き!!! Vol.001

▼地産地消・食べ残し減少のための条例・運動について 3

◆残さず食べよう！30・10（さんまる いちまる）運動について

残さず食べよう！30・10（さんまる いちまる）運動

更新日：2016年9月1日

食べ物を捨ててしまうなんてもったいない！
 まだ食べられるのに捨てられてしまう「食品ロス」は、全国で年間632万トンとも言われています。（農林水産省及び環境省「平成25年度推計」）
 これは、日本における年間の食用の魚介類の量（約622万トン）とほぼ同じと言われています。
 松本市では、「残さず食べよう！30・10（さんまる いちまる）運動」に取り組んでおり、食品ロス削減の取組みを推進しています。

おそとで「残さず食べよう！30・10（さんまる いちまる）運動」

飲食店等からの生ごみのうち、約6割がお客さんの食べ残した料理です。
 会食、宴会時での食べ残しを減らすために、以下について取り組んでみましょう。

- 1 注文の際に適量を注文しましょう。
- 2 乾杯後30分間は席を立たず料理を楽しみましょう。
- 3 お開き前10分間は自分の席に戻って、再度料理を楽しみましょう。



ぜひ、職場の宴会から始めていただき、「もったいない」を心がけ、食品ロス削減の取組みにご協力ください。

●事業所・団体等の宴会においてご協力を

「残さず食べよう！30・10運動」コースターの活用や開始時に30・10運動への協力をアナウンスする等の実践についてご協力ください。

●アナウンス例

- 1 宴会開始時
 『ここで、ご出席の皆さまに、松本市が提唱しています「残さず食べよう30・10運動」をご案内いたします。30・10運動とは、宴会時における食べ残しを減らす運動です。乾杯後の30分間とお開き前の10分間は自分の席について料理を楽しみ、「もったいない」を心がけ、食品ロス削減の取組みにご協力ください。』
- 2 宴会終了10分前
 『皆さまにお知らせいたします。間もなくお開きの時間となりますので、今一度自分の席に戻り、料理をお楽しみください。』

おうちで「残さず食べよう！30・10（さんまる いちまる）運動」

家庭から出る生ごみのうち、約3割がまだ食べられるのに廃棄されています。

また、食品ロスの約半分は一般家庭からのものです。

- 毎月30日は、冷蔵庫クリーンアップデー

冷蔵庫の賞味期限・消費期限の近いものや野菜・肉等の傷みや古いものを積極的に使用し、冷蔵庫を空にしましょう。

- 毎月10日は、もったいないクッキングデー

特に、今まで食べられるのに捨てられていた野菜の茎や皮等を活用して子どもといっしょに料理をするもったいないクッキングを実施しましょう。



飲食店の皆さまへ

おそとで「残さず食べよう！30・10（さんまる いちまる）運動」のPR用コースター、ポケットティッシュ、ポスターを作成しました。
 ご協力いただける市内の飲食店には、無料で配布しますのでご連絡ください。



PR用コースター（見本）

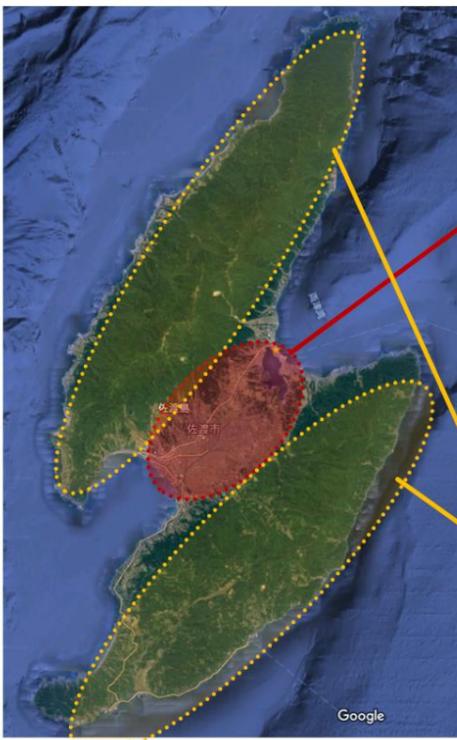


PR用ポケットティッシュ（見本）

【出典】松本市ホームページ くるくるねっとまつもと

▼農業の再隆盛戦略：秋田県大潟村の行政視察を受けて 4

◆佐渡市としてのエリア別農業展望について



▼【秋田県大潟村モデル】

◆ナンバーワンの米づくり!!!

- ・基盤整備による拡大継続による農業の大規模化
- ・A I（人工知能）導入型大規模農業（GPS連動田植・稲刈機等）の実証実験フィールド
- ・朱鷺と暮らす郷土のさらなる改善
 ⇒国仲平野の大規模農業スタイル『農で食べる!』

▼【全国棚田サミットモデル】

◆オンリーワンの米づくり!!!

- ・集落米（棚田米）の生産と滞在型観光・農業体験との融合
- ・A I（人工知能）導入型農業（小型機械、法面自動草刈機等）の実証実験フィールド
- ・棚田米のさらなる改善、参加集落の増加
 ⇒棚田or準棚田の小規模農業スタイル『農でつながる!』

▼『佐渡アイランド集落ツーリズム』構想とは・・・ 1

佐渡の農山漁村の生業を大切にし、 集落でかけがえのない時を過ごす 人と人とが繋がっていく世界観



【出典】集落のプロモーションビデオのたたき台（制作：スタジオマクワカ）

▼『佐渡アイランド集落ツーリズム』構想の実現 2

佐渡の集落は多様で個性豊かで素晴らしい！
 生き活きと暮らせる集落づくりを実現します！

